創造・参加・実践
No.713

最新のJR西労組運動をチェックしよう!
JR西労組HP（http://www.jrw-union.gr.jp）
JR西労組 LINE@ 新規登録受付中
「友だち追加」から「ＩＤ検索」または「QRコード」で登録！　@dzc0159s

# JR西労組 WEST UNION

西日本旅客鉄道労働組合
〒530-0012　大阪市北区芝田2丁目1番18号
西阪急ビル９階
TEL06-6375-9869㈹　JR071-7155㈹
(FAX)06-6373-4133　JR071-7151
発行責任者　上村 良成
編集責任者　田中 佑佳

# 2023年安全を誓い前進を期する集い

主催者を代表して挨拶する上村中央執行委員長

荻山JR連合会長

連合大阪井尻事務局長

## 安全・安定輸送に日夜奮闘している組合員と家族のためにも、みんなで力を合わせて難局を乗り越えよう!!

## 安全を基礎に組合員の総団結で明るい未来を切り拓いていこう

ＪＲ西労組中央本部は、1月6日(金)、ホテルグランヴィア大阪において、「２０２３年安全を誓い前進を期する集い」を開催した。今年はコロナウイルス感染症対策を講じた上で、各地本・総支部、国会議員・ＪＲ西労組議員団会議所属の地方議員、ＪＲ連合、近畿交運労協、友誼団体等から約１２０名が集まり、新年を迎え安全への誓いを新たにし、コロナから脱却し反転攻勢の1年にすることを誓い合った。

冒頭、上村委員長は、挨拶の中で、コロナ禍の3年、日々、公共交通機関としての使命を果たしていただいていること、また年末年始輸送を完遂頂いた組合員の奮闘に敬意と感謝の意を表した。そして、社員が働きがいを持てるように取り組んでいくこと、２０２３春闘は、物価上昇に対応するべべアを求め闘うこと、今年はうめきた新駅など明るい話題も多く、組合員が夢と希望を取り戻す1年にしたいとの決意を述べた。

その後、来賓としてお招きした連合大阪の井尻事務局長、近畿交運労協の田村議長、ＪＲ連合国会議員懇談会副会長の泉衆議院議員、ＪＲ西日本の長谷川社長から挨拶を受けた。長谷川社長はＪＲ西労組組合員に対する年末年始輸送での奮闘と日々の努力への感謝と今後も労使で協力し、様々な取り組みを進めて行きたいと述べた。

最後に、コロナ禍からの出口がようやく見えつつある状況の中、労働組合の役割である組合員に寄り添い支え合う運動、世話役活動を実践し、団結を深め合うことで、ＪＲ西労組組合員が総団結して明るい未来を切り拓くことを誓い合い、集いは閉会した。

近畿交運労協田村議長

国会議員懇談会泉副会長

JR西労組議員団会議
中田議長（米子市議）

交運共済松岡理事長

ＪＲ西日本長谷川社長

## 米原地区組織オルグ

## 組織としての労働組合の重要性を再確認

中央本部は、12月2日(金)、米原産業会館会議室において、京都地本と共に、京都地本米原地区組織オルグを開催した。滋賀支部および米原運輸分会、米原列車区分会の役員を含め総勢22名が出席した。

冒頭、白壁副執行委員長は、コロナ禍で組合員の生活が大きく変わり、組織改正など仕事の仕組みが変化している中、労働組合の必要性と重要性はさらに高まっていること、また、会社の経営状況についてや、冬季賞与の議論について、23春闘に向けた連合方針や現在の見解などについて挨拶を行った。

その後、意見交換を行い、業務面では、雪害対応、遠隔ＭＶ、ネクストステップ等の社員運用についての課題について、組織面では、コロナ禍において分会行事が行えず、コミュニケーションが不足となっていること、また組合員個人との付き合い方の難しさなどの課題が出された。

組織率95％を超えた今、組織強化のために求められることは、西労組の魅力発信である。引き続き、ＪＲ西労組は、組合員一人一人と対話を大切にし、生の声を聞くことで、組合員に寄り添った運動を展開していく。

## 上村中央執行委員長挨拶（要旨）

【はじめに】

日々の業務のご精励とＪＲ西労組運動のご協力に感謝を申し上げます。

また、コロナ禍の３年、日々、公共交通機関の使命を果たしていただいていること、心配していた北陸等の大きな雪害もなく、年末年始輸送が無事完遂したことに対するご尽力に感謝を申し上げます。

長引くコロナ禍で不安、不満が高まる中、組合員は皆で励まし合い、支え合ってきました。引き続き予断を許さない状況は続いていますが、国内製薬会社の治療薬の生産や、インフルエンザと同じ「５類」に引き下げる検討も始まり、ようやく長いトンネルの出口に立つ所まで来ました。

2023年は、2022年度決算の黒字転換を足掛かりに、夢と希望を取り戻す１年にしたいと思います。

それでは、３点について申し上げ、新年のあいさつに代えたいと思います。

**安 全**

福知山線列車事故から間もなく18年となります。この間、愚直に安全を守り続けていることに敬意を表したいと思います。

４月には、労使で議論・策定した新たな安全計画が始まります。昨年は、死亡労災こそ発生していませんが、重大労災や危険な事象の撲滅には至っていません。

この間進めてきたアサーションについても、職場内では定着しつつあるものの、職場や系統、会社を超えた取り組みには至っておらず、新計画のもと集中的な取り組みを行っていかなければなりません。

また、グループ会社との権威勾配は未だ存在していることを私たち一人ひとりが自覚する必要もあります。仲間意識の醸成が権威勾配解消の鍵になるのではないかと考えます。

さらには、一昨年作成した「安全お守り手帳」も、「気づき」を得るツールとして活用の継続を要請します。

**働きがいの向上**

一時帰休は12月末で終了しましたが、今なお200名に近い組合員がグループ内外の出向中であり、痛みの伴う施策への理解、協力に感謝を申し上げます。

組合員は歯をくいしばって苦境を乗り越えようとしている一方で、若年・中堅層の離職が止まりません。

鉄道業界においては、長期雇用を前提とした技術習得、技術伝承が不可欠であり、雇用の流動化を前提とした人材育成は難しいと思っています。労使で英知を結集して、離職に歯止めをかけるための対応しなければ、安全性を棄損することにもなりかねません。

社内副業など、眠っている組合員の可能性をもっと発掘する仕掛けも必要ですし、社員が働きがいを持てるような改革もしていかなければなりません。

コロナ禍での社会変容、行動変容は、ＪＲ産業、そしてＪＲ西日本グループに大きな試練を与えましたが、私たちの未来は決して暗い訳ではありません。

３月のダイヤ改正でうめきた新駅が開業し、関西空港と大阪駅が47分で結ばれます。2031年春のなにわ筋線開業時には所要時間が30分台に短縮され、訪日外国人の流れが大阪ミナミからキタに変わる可能性を秘めています。

１年後には北陸新幹線の敦賀延伸が控え、2025年の大阪万博には約三千万人が来場見込みであり、広島駅には路面電車が２階で発着する新駅ビルも完成間近です。

組合員が前を向けるようＪＲ産業の魅力や夢を語るなど、明るい話題にも触れていきたいと思います。

**春闘に対する決意**

組合員の中にはボーナス復元優先との声もありますが、看過できないレベルの物価上昇が続いており、2月の中央委員会で決定されるＪＲ連合の方針に則り、ベア要求を掲げていきたいと考えています。

加えて、ボーナスについても、年間臨給で求めていきたいと考えています。

経団連も「ベアを中心とした賃上げ」の方針と出しており、先般、日経新聞に長谷川社長の春闘に対するコメントとして「コロナ禍でインフラを支えてきた社員に報いるために議論したい」と掲載されていました。

若年離職に歯止めをかける一助となるような春闘にしていきたいと思います。

今年は４月に統一地方選挙が行われ、ＪＲ社員である梶原京都府議、柿本広島県議が２期目に挑戦します。また、福岡県議会にも組合員の家族が新たに挑戦します。地方路線の話もあり、地方議会が重要な役割を担っています。西労組全体として全力で取り組んでいくことをお願い申し上げます。

あらためて、新型コロナウイルス感染症が収束し、皆様、そしてご家族にとって、健やかで未来に繋がる１年となることをお祈りするとともに、ＪＲ西労組の運動に対するいっそうのご理解とご協力をお願いします。

川柳　第23回文化・文芸作品コンクール／川柳・標語部門　［ コロナ禍の　創意工夫は　生きる糧 ］　岡林 秀樹さん（大阪地本・鶴橋運輸分会）